

〔釋日本紀九〕述義即帝位於樞原宮凡厥即位、賀正、御都、踐祚等事、並發此時者矣、

〔令義解二〕神祇凡踐祚之日謂天皇即位、謂之踐祚、位也、福也、

〔下學集下〕態藝即位御宇之始也寶祚天子之重祚、再祚共謂天子之再即位也

〔名目抄臨時〕即位

〔名目抄鈔臨時〕即位

名目ニハシヨクキトアリ、今世ソクキト云、シヨクニ通ズルナリ、

〔代始和抄〕御即位事

即位といふは、天子受禪の後、まさしく南面の位につかせ給て、はじめて百司萬民に龍顔を見えさせ賜ふよし也、その月はさだまれる月なし、○中御即位の日は、上卿著陣して辨に仰て是を勘申さしむ、

〔中右記〕嘉承二年閏十月九日、晚頭從殿下○藤原忠實有召、則參入、民部卿、後、新源中納言基左大辨、重藤

相公顯同以參會、聊有議定事、

御即位日、三ケ日之中、可被用何日哉、

十一月廿二日癸酉十一月例、清和、宇多、朱雀院、癸酉日無先例、

十二月一日壬午十二月例、太皇、白河、堀河院、壬午日太皇、○白河受禪日

同十三日甲午十二月例、見上、甲午、後冷泉院、

人々被申云、如此事、以早爲先、十一月廿二日、十二月一日之間、可被用也、下官申云、十二月一日最

上吉也、就中十二月并壬午吉例也、如此大事、儲日可有也、十三日儲料可被置也、

十一月三日○中御即位定、先令勘日時、來十二月一日申刻、

〔玉海〕壽永二年九月十九日辛巳、親經來問、仍就此問狀、所令申子細也、

日時定